

13	わしが熊を襲（ ）	う。
15	みんな目を覚（ ）	ます。
17	寒さや霜（ ）	が刺す。
14	毛を逆立（ ）	てる。
16	息が白く凍（ ）	る。

【第二段落のまとめ】（117ページ3行目 ～ 119ページ11行目まで）

問15 「いったい僕は、なぜこうみんなにいやがられるのだろう。……つらいはなしだなあ。」（117・4～9）の記述から、よだかが自分のことをどのように考えていることが分かるか。次から選びなさい。

ア 周囲のことを気にして、嫌いなめじろの赤ん坊でも助けてしまう偽善者。
 イ 市蔵という札を首にかけること、鷹に許してもらおうとする道化者。
 ウ 何も悪いことをしていないのに、理不尽なことで皆から嫌われる被害者。

問16 「赤ん坊をまるで盗人からでも取り返すように僕からひきはなしたんだなあ」とあるが、（117・7）

① 「盗人からでも取り返すように」という比喻は、どういうことを表わしていますか。

② この部分にはよだかのどのような気持ちが表われているか。

問17 「つらい話だなあ」とあるが、どんなことをつらいと思っているのか。（117・9）

問18 「雲が意地悪く光って」（117・10）は、よだかのどのような意識を表現しているか。簡潔に答えよ。

問19 次の太字の語句の意味を答えなさい。

1 鳥の仲間のつらよしだよ。

2 生半可の小さい鳥。

3 せわしくまたたきながら言いました。

4 わしは大風おおふうに言いました。

5 いぶかしそうに星空を見上げました。

●問20 次の語句の意味を調べなさい。

1 そつぽ

2 にわかに

3 いたずらに

4 てんで

●問21 よだかは三回虫を飲み込むが、そのたびに気持ちはどう変わっていったか。

一回目 「小さな羽虫が幾匹もその喉のどに入りました」(117・14)

二回目 「一匹のかぶとむしが、よだかの喉のどに入って、ひどくもがきました」(118・1)

三回目 「また一匹のかぶとむしが、よだかの喉のどに入りました」(118・5)

●問22 「背中がぞつとした」(118・2)は、よだかがどういう気持ちになったというのか。適当なものを次の中から選びなさい。

ア うれしさ イ 恐怖感 ウ 安心感 エ 満足感 オ 悲しさ

●問23 「胸がつかえた」(118・4)とは、ここではどういう意味で使われているか。

ア 言いたいことがあっても、はっきりと言えなかった。
イ やすらぎと満足感が心がいっぱいになった。
ウ 心配事などがあって、心が落ち着かなかった。
エ とても不愉快でじっとしていられなかった。

13	わしが熊を襲（おそ）う。	14	毛を逆立（さかだ）てる。
15	みんな目を覚（さ）ます。	16	息が白く凍（こお）る。
17	寒さや霜（しも）が刺す。		

【第二段落のまとめ】（117ページ3行目 ～ 119ページ11行目まで）

問15 「いったい僕は、なぜこうみんなにいやがられるのだろう。……つらいはなしだなあ。」（117・4～9）の記述から、よだかが自分のことをどのように考えていることが分かるか。次から選びなさい。

ウ ××× 周囲のことを気にして、嫌いなめじろの赤ん坊でも助けてしまう偽善者。市蔵という札を首にかけること、鷹に許してもらおうとする道化者。何も悪いことをしていないのに、理不尽なことで皆から嫌われる被害者。

ウ

問16 「赤ん坊をまるで盗人からでも取り返すように僕からひきはなしたんだなあ」とある

① 「盗人からでも取り返すように」という比喻は、どういうことを表わしていますか。

よいことをしたのに、まるで悪いことをしたかのように扱われること。

② この部分にはよだかのどのような気持ちが表われているか。

いくらよいことをしても、自分のみにくさのために、それが認められないことへのくやしき。

問17 「つらい話だなあ」とあるが、どんなことをつらいと思っているのか。（117・9）

何も悪いことをしていないのに、みにくいというだけで、いやがられ、改名という屈辱的なことをさせられること。

問18 「雲が意地悪く光って」（117・10）は、よだかのどのような意識を表現しているか。簡潔に答えよ。

雲さえ自分に意地悪をしているという被害者意識を表している。

問19 次の太字の語句の意味を答えなさい。

1 鳥の仲間のつらよしだよ。 仲間や社会の名誉を傷つけること。

2 生半可の小さい鳥。 知識や言動に正確さを欠く状態。

P. 117 L4～L9を読む

- 3 せわしくまたたきながら言いました。 忙しく落ち着かない様子で
- 4 わしは大風おおふうに言いました。 えらぶって人を見下す様子
- 5 いぶかしそうに星空を見上げました。 疑わしい様子で

●問20 次の語句の意味を調べなさい。

1 そつば	無視すること
2 にわかに	急に
3 いたずらに	無駄に
4 てんで	とても

●問21 よだかは三回虫を飲み込むが、そのたびに気持ちはどう変わっていったか。

一回目 「小さな羽虫が幾匹もその喉のどに入りました」(117・14)

伏線になっている

全く無意識にのみ込む。

二回目 「一匹のかぶとむしが、よだかの喉のどに入って、ひどくもがきました」(118・1)

無意識のうちにも、なんとなく自分の恐ろしさを予感している。

三回目 「また一匹のかぶとむしが、よだかの喉のどに入りました」(118・5)

はつきりと自分の行為の非道さを自覚している。

●問22

「背中がぞつとした」()
適切なものを次の中から選べなさい。
恐怖感を表すことが多い。
気持ちになったというのか。

ア うれしさ イ 恐怖感 ウ 安心感 エ 満足感 オ 悲しさ

イ

●問23

「胸がつかえた」(118・4)とは、ここではどういう意味で使われているか。

ア 言いたいことがあっても、はつきりと言えなかった。
イ やすらぎと満足感が心がいっぱいになった。
ウ 心配事などがあって、心が落ち着かなかった。
エ とても不愉快でじっとしていられなかった。

ウ